

令和8年1月29日(木)

減塩推進における食環境づくり講習会



# 行政説明

## 減塩推進の取組について

福島県保健福祉部 健康づくり推進課

# 福島県民の健康指標

## 全がん死亡率

**69.4** (全国ワースト4位)

(2023年国立がん研究センターがん情報サービス「がん統計」(厚生労働省人口動態統計・75歳未満年齢調整死亡率))  
※人口10万人当たりの死因死亡率  
※基準人口は昭和60年モデル人口

## 脳血管疾患死亡率

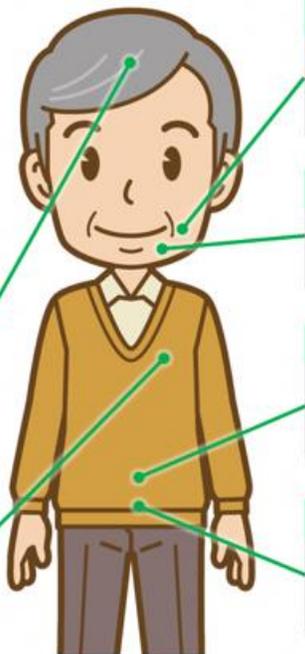
**男性 109.6** **女性 75.2**

(全国ワースト10位) (全国ワースト3位)  
(2020年人口動態統計特殊報告・年齢調整死亡率)  
※人口10万人当たりの死因死亡率  
※基準人口は平成27年モデル人口

## 心疾患死亡率

**男性 212.9** **女性 118.9**

(全国ワースト8位) (全国ワースト10位)  
(2020年人口動態統計特殊報告・年齢調整死亡率)  
※人口10万人当たりの死因死亡率  
※基準人口は平成27年モデル人口



## 食塩摂取量

**男性 11.9g → 11.1g** **女性 9.9g → 9.0g**  
(全国ワースト2位→11位) (全国ワースト2位→20位)  
(2016年→2024年国民健康・栄養調査)

## 喫煙率

**男性 33.2%** **女性 10.5%**  
(全国ワースト1位) (全国ワースト2位)  
(2022年国民生活基礎調査)

## メタボ率

**19.5%** (全国ワースト4位)  
(厚生労働省特定健診・特定保健指導の実施状況  
2023年度都道府県別特定健康診査・特定保健指導・  
メタボリックシンドロームの状況)

## 肥満者の割合

**男性 39.4%** **女性 26.6%**  
(全国ワースト7位) (全国ワースト3位)  
(厚生労働省第10回NDBオープンデータ  
2022年度特定健診 検査)

「肥満・食塩・喫煙」の3点を重点的に改善を図る健康課題に位置付け

## 第三次健康ふくしま21計画（令和6年～17年までの12年間）

県民の皆様を始め、市町村や関係機関と力を合わせ、「オールふくしま」で改善に向けた取組を推進することで、「健康長寿ふくしま」の実現を目指していきます。

### 「減塩」の取組

ポイントは「おいしく減塩」

本県の豊かな発酵文化である味噌・醤油等のうま味を活かし、おいしく無理なく適切な塩分濃度を知り・実践する



## 減塩推進の食環境づくり

健康長寿の実現に向け、働き盛り世代の県民の食塩摂取量の実態を把握するとともに、県民の塩分の過剰摂取の改善につながる普及啓発等を行うなど、誰もがおいしく減塩できる食環境づくりを推進する。

令和6年度から「ふくしま減塩推進ネットワーク会議」で推進体制を整備

## 令和7年3月 食環境アライアンス 正式登録

ふくしま減塩推進ネットワーク会議（令和7年3月更新）

首長（または部長等）が組織体に期待すること



福島県知事 内堀雅雄

福島県では、県民の食塩摂取量が全国でも高く、県民総ぐるみで改善に取り組む必要がある健康課題となっています。

このため、官民一体となって「ふくしま減塩推進ネットワーク会議」を新たに設置し、企業・行政・関係団体と問題意識を共有し、アイデアを出し合いながら取組を考え、それぞれが主体的に対策を行いながら、社会全体で自然に減塩ができる食環境の整備を進めています。楽しく無理なく健康づくりを続けることができるよう食・運動・社会参加を推進している県民運動とも連動し、県民が健康長寿でいきいきと活躍できるようオールふくしまで取り組んでいきます。全国各地での取組もどんどん発信いただき、いい意味で競争しながら、ともに健康的で持続可能な食環境を作っていきましょう。

自治体としての重点キーワード

おいしく減塩、誰もが自然に健康になれる持続可能な食環境

地域課題を踏まえた活動目的

第三次健康ふくしま21計画がスタートし、重点的に取り組むべき「肥満・食塩・喫煙」に対し、食の施策としては適正体重と減塩対策を推進していく必要がある。これらの課題の改善に向けては、低関心層でも無理なく自然に健康的な生活習慣をおくることができる環境づくりを進めていくことが重要であり、特に減塩につながる食環境整備の推進体制強化を目的に、企業・関係団体・市町村等を対象とした会議を開催するとともに、県民に減塩の実践を促すイベントや情報発信等を行う。



# 令和6年度の取組

## ふくしま減塩推進ネットワーク会議

2回開催（8月・2月）

健康長寿の実現に向けては、行政や食環境に関わる事業者・関係団体が総ぐるみでの食塩摂取量の減少を図る必要がある。

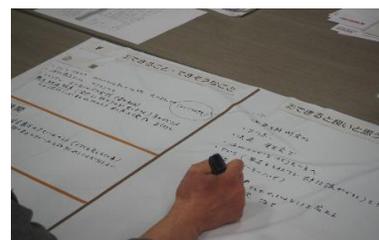
そのため、市町村・食品関連事業者・関係団体等と減塩に関する会議を開催し、推進体制の強化を図り、自然に健康になれる食環境づくりを目指す。

### 【参集者】

市町村、福島県食育応援企業団（スーパー、食品関連事業者、報道機関等）、味噌醤油工業協同組合、管理栄養士・栄養士養成施設、福島県食生活改善推進連絡協議会、福島県栄養士会、関係団体等

### 【内容】

食塩に関する健康課題の状況や、各機関の取組を共有・情報交換することでネットワークの強化を図るとともに、連携した取組について検討する。

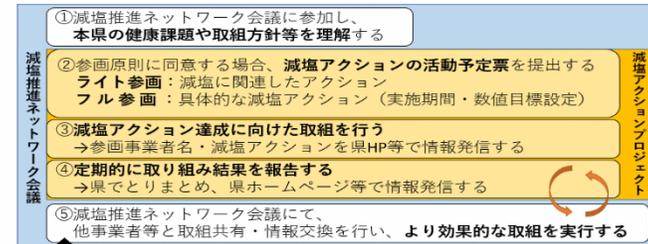


## 【減塩アクションプロジェクト】

各企業が減塩に関する減塩アクションを設定し、その目標及び成果を発信していく。

※令和6年度：7事業者が参画

### 参画事業者への期待と役割



プロジェクト参画事業者だけでなく、市町村・県食育応援企業・関係団体等が参加し、「他事業者等の取組を知る」「課題の共有や工夫を知る」「連携強化やきっかけを得る」等、みんなで食環境づくりを推進していく

## イベントでの啓発活動

### 減塩ワークショップ



### 減塩商品食べくらべ



## スーパーにおける減塩+ベジ推進モデル事業

- ① 福島県「おいしく減塩」の基準での商品開発・販売
- ② 減塩&ベジ・ファーストの実践を促すキャンペーン

アンケート・ヒアリング、POSデータ等による検証



## 減塩セミナー※第2回会議後に開催

### 講演



### 減塩ブース



# 令和7年度の取組

## ①ふくしま減塩推進ネットワーク会議の開催

第1回：令和7年7月23日（水）13：30～15：20  
 出席者：86名（市町村26名、県食育応援企業37名、関係団体等9名、  
 保健福祉事務所6名、県外自治体8名）  
 ※会議後、行政栄養士・県栄養士会向け講習会を開催  
 出席者：61名

第2回：令和8年1月29日（木）13：15～15：30  
 ※会議後、名刺交換・情報交換

## ②減塩アクションプロジェクト参画事業者の拡大

福島県食育応援企業に対して積極的に協力を依頼  
 令和6年度：7事業者 ➡ 令和8年1月29日時点：19事業者

## ③減塩推進イベントの開催

商業施設（9月20日（土）ヨークパーク）と  
 開成山公園（9月27・28日（土・日））で開催



※このほか、「ふれ愛セミナー」（10月25日（土）マルト平尼子店）での減塩ブースの実施、福島銀行本店での行員向け普及啓発を実施

## ④おいしく減塩＋ベジ推進キャンペーン

減塩惣菜等の開発・販売、減塩＋ベジ・ファースト推進イベントの実施について、県食育応援企業のスーパー6社の協力を得て、減塩惣菜等の販売と合わせて、体験型のブース設置等による「減塩」及び「野菜摂取」に関する普及啓発を実施している。

**①減塩**

元の惣菜・弁当

**②減塩＋ベジ・ファースト**

令和7年11月～令和8年2月に県内のスーパーでキャンペーンを展開  
 【目的1】減塩や野菜摂取に関する普及啓発  
 【目的2】減塩や野菜摂取の効果検証  
 →県民の意識・行動変容  
 →事業者の減塩・野菜関連商品の売上増加

## ⑤親子で学ぶ・体験する「減塩ワークショップ」の実施

減塩アクションプロジェクト参画事業者3社の協力を得て、小学生とその保護者等のペアを対象に、「おいしく減塩」献立の調理実習と「減塩のいいことがわかる!!」減塩ワークショップを実施している。



タイムスケジュール（想定）	
10:00～10:10	受付
10:10～10:15	開会・連絡事項（5分）
10:15～11:00	減塩ワークショップ（45分）
11:00～11:10	身支度など（10分）
11:10～12:30	調理実習（80分）
12:30～13:00	試食・献立説明（30分）
13:00～13:20	後片付け（20分） 終わりに挨拶解散

## ⑥「減塩」「ベジ・ファースト」に関する情報発信

- 新聞の活用  
7月から令和8年2月までの毎月17日の「減塩の日」に地元新聞の2紙に啓発広告を掲載する。
- 地域情報紙の活用  
令和8年1月号に啓発広告を掲載
- デジタルサイネージを活用  
スーパー・コンビニエンスストアに依頼予定

